

# 点検の不動産利活用

一般財団法人 日本不動産研究所

第46回

いなべ市は鈴鹿山脈の東方、三重県の最北端に位置し、岐阜県と滋賀県に接する人口約4・6万人の自然豊かな市である。03年12月に北勢町・員弁町・大安町・藤原町の4町が合併して誕生した。そんないなべ市で19年に県内外から注目を浴びる出来事があった。19年3月に完成したいなべ市の新庁舎の隣に、同年5月行政によるグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」がオープンしたのだ。

森の中の小屋をイメージしたそれぞれ独立した4つの店舗からなるが、グリーンインフラの名通り環境に配慮した施設となっている。元々は山林の放棄地だった場所に新

## 新庁舎と共にグリーンインフラを整備 三重県いなべ市

# 放棄地をSDGsの拠点に

森の中の小屋をイメージしたそれぞれ独立した4つの店舗からなるが、グリーンインフラの名通り環境に配慮した施設となっている。元々は山林の放棄地だった場所に新

お店の顔ぶれはパン屋、食肉加工屋(ソーセージなど)、カフェ、食料品店、パティスリーなどだが、名古屋や大阪

からの有名店の出店であることも話題となった。中には元の店を畳んで出店、いなべ市に移住というオーナーもいて、テレビでも取り上げられていた。18年のいなべ市全体の総観光入込客数が約43万人

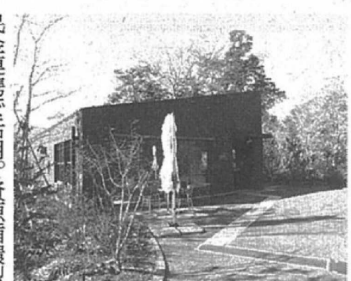
の10都市の一つに選ばれた。事業名は「グリーンクリエイティブいなべ」グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」から、カジュアルなSDGsの推進を世界へ。「にぎわいの森」は壮大なプロジェクトの出発点なのだ。

森林資源は日本の至る所にあるから、前途はなかなか多難のように見える。提案書では「海辺といえは鎌倉・湘南、山辺といえはいなべ市」というイメージを国内外で浸透させたいという。実現したらずいことだ。

## 「山辺」をつくる

本事業の提案書によると、「鈴鹿山脈の麓のロケーションや手付かずの景勝地、清流、食材、森林、竹林、草花

といった地域資源について「にぎわいの森」を拠点に官



①写真左奥に「にぎわいの森」、右側が市庁舎  
②エリア案内図 ③案内看板

④敷地内の小屋風店舗

藤康範